

事業報告

令和4年度 大分県公民館テーマ別研修会②

日時：令和4年9月16日（金）10：00～15：50

会場：大分県身体障害者福祉センター 大分県母子・父子福祉センター

参加者：26名

<研修趣旨>

共に学び生きる「共生社会」の実現に向け多様な取組の必要性が認知されており、生涯を通じた障がい者の学びを支援するために公民館が果たす役割について、事例に学ぶとともに実践的な知識・技術の習得を図ることにより公民館職員としての資質の向上を図る。

<研修内容>

○報告 「『市町村のICT環境』に関する調査について」

報告者 大分県立図書館 学校・地域支援課 主任社会教育主事 黒木 哲也

- 1 国の動向と市町村のICT環境に関するアンケート結果について説明
- 2 今後、職員のICT活用能力向上のための研修、ICT環境や関連機器を整備し、幅広い住民を対象とした講座・事業の実施が求められる。。

○演習 「障がい者スポーツを体験しよう」

～ボッチャ・卓球バレー・フライングディスク～

講師 ボッチャ ボッチャ大分代表 渡邊 法子 氏
卓球バレー 大分県卓球バレー協会公認指導員 佐藤 貞子 氏
フライングディスク 大分県障害者フライングディスク協会
事務局 森田 ますみ 氏

- 1 3つの障がい者スポーツを実際に体験し、楽しさや難しさを感じる機会となった。
- 2 各講師から、ルールや実施する際の注意点について楽しく解説していただいた。

○講義 「公民館が行う知的障がい者支援講座」(zoom対応)

講師 NPO法人 ぷろじえくとplus 相談スペース ポッシュ
相談支援専門員 足立 志津子 氏

- 1 知的障がい者オープンカレッジの取組の開始から18年間の歩みと反応について解説
- 2 具体的な各講座のテーマや内容やサポーターの活用や取組みの工夫について紹介
- 3 障がいのある人の生涯学習支援は、障がい福祉とのコラボ、スタッフや講師の発掘を大事にして継続することが成功の鍵となる。

○ワークショップ「公民館活動による障がい者の学び支援～公民館講座(計画)を作ってみよう」

ファシリテーター 県教育庁社会教育課 社会教育主事 太郎良 将彦

- ・ 4人班に別れ、実際に講座を開設するために企画・計画を立て、全体に発表し交流した。

【演習】「障がい者スポーツを体験しよう」



卓球バレー 大分県卓球バレー協会公認指導員
佐藤 貞子 氏



ボッチャ ボッチャ大分代表
渡邊 法子 氏



講義「公民館が行う知的障がい者支援講座」(zoom 対応)
講師 NPO 法人 ぷろじえくと plus 相談スペース ポッシュ
相談支援専門員 足立 志津子 氏



質疑・応答

＜参加者感想＞

- 実際に障がい者スポーツを体験することができて、楽しさや難しさを感じることができました。
- ボッチャ、卓球バレー、フライングディスク等、自分が楽しくできたので、是非、機会があれば広げたいと考えました。
- 足立さんの熱い思いがとても伝わってきました。いつでもどこでも誰もが学ぶ機会を持つことができるように、そして生きがいを持ったり、幸せに感じる体験ができるような取組を考えてみたいと思いました。
- 中でも印象に残ったのは、皆で共感し、楽しむということです。ありがとうございました。
- ワークショップは4人での話し合いでそれぞれの知恵を出し合い、よい計画が立てられたと思う。
- 障がいのある方と交流を深めたいと思いがつのりました。
- 現状を踏まえ、基本的又は最新の情報を捉えた研修をお願いします。初めて参加しましたがよかったです。
- 公民館としてICTが進んでいないこと、障がいを持っている利用者がいないこと、高齢者の多くが公民館利用が少なく参考になることが少ないかも知れないと思いました。